

スを診なくてなりません。

身体の部位別の治療方法も、平均的な目標を探索して改良されてきましたが、これからは個々の体质、生活習慣などの違いに対応した個別化医療も進められていくでしょう。これから的人生100年時代を元気に生きていくには、

パーソンを治すだけでは間に合いません。コホート研究などで少しずつ未来予測ができるようになります。ここを治せば、20年後、30年後には悪くならない等のような、早めに個別的に予防できるような治療や指導もできると思います。今後、整形外科以外の分野とも協力し、地道な研究が求められています。

——最後に日本の医療全般についてなにか一言。

コロナ禍でもしばしば問題になつてますが、新しい医療技術の自国開発がなかなか難しくなつてきています。ひとつの原因是、研究に国がお金を投入していないことで、研究の分野にかわらず、工学系など他の分野でも研究者育成へのサポートが十分ではありません。医薬品だけではなく、新しい技術の開発のために研究者をサポートすれば、それは国民にも還元されます。国として研究者を育て、知的財産を積んでほしいですね。

松田 秀一教授の経歴

1990年3月	九州大学医学部医学科 卒業
1990年6月	国立福岡中央病院(研修医)
1991年6月	九州大学医学部附属病院(研修医)
1992年6月	九州労災病院(医員)
1993年4月	米国 Biomechanical Research Laboratory 研究員
1995年3月	九州大学医学部附属病院 医員
1995年4月	山口赤十字病院(医員)
1997年6月	九州大学医学部附属病院助手
2007年12月	九州大学病院講師
2010年8月	九州大学大学院医学研究院准教授
2012年3月	京都大学大学院医学研究科 感覺運動系外科学講座 整形外科学

